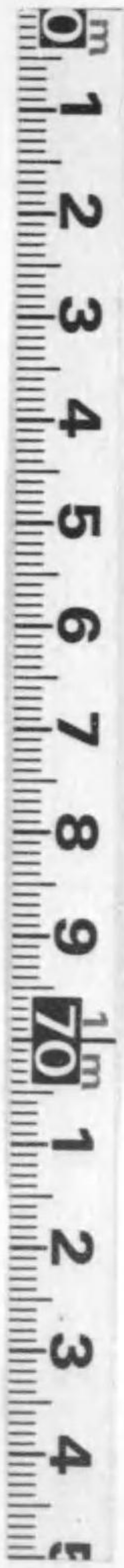


酸性土壤の採

326

71



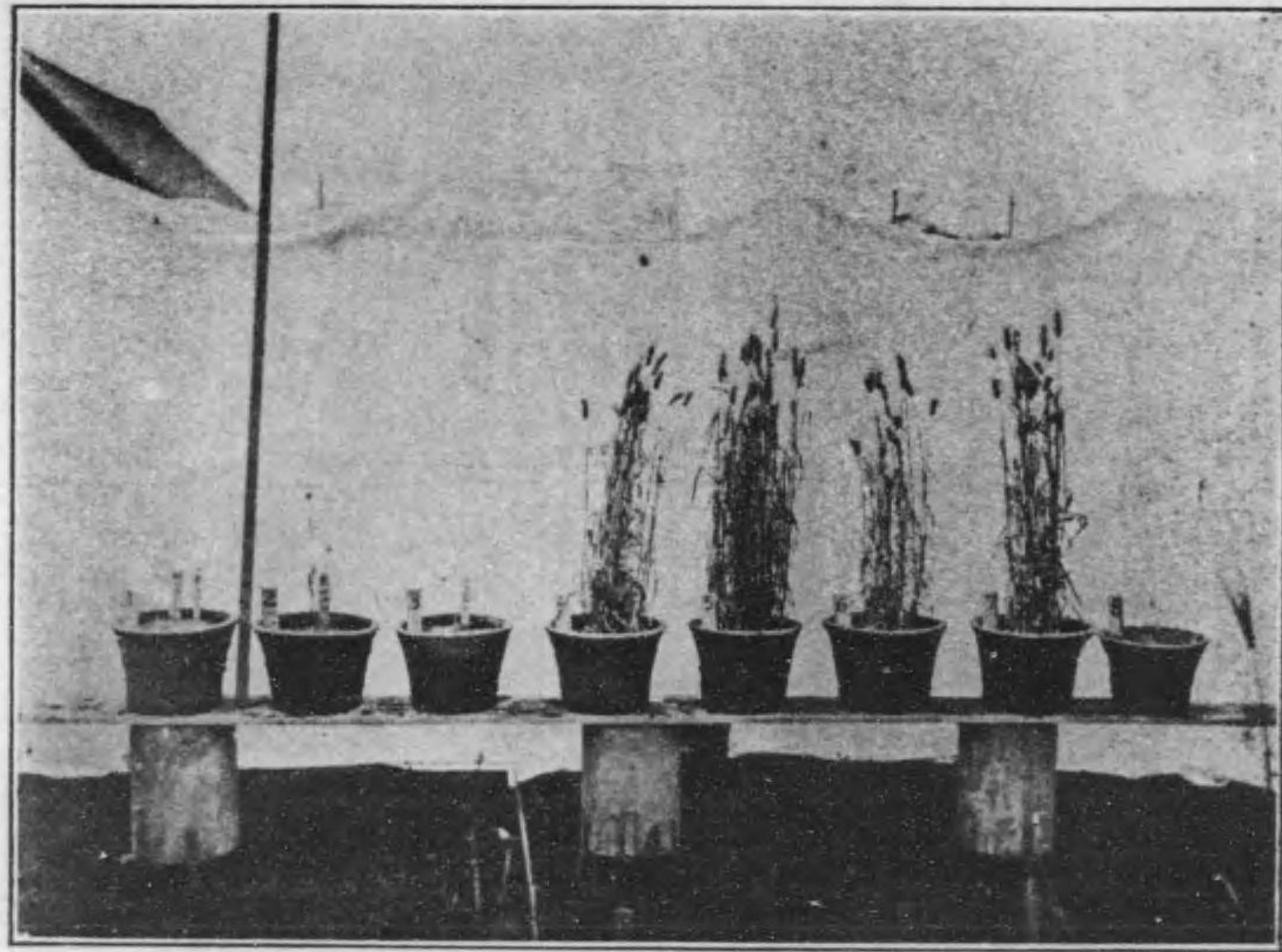
始



326
71

大正四年一月
農事試驗場特別報告

酸性土の葉



- | | | | | | | | |
|-------|--------|--------|---------|-------------|---------|-------------|---------|
| 一、無肥料 | 二、中性肥料 | 三、酸性肥料 | 四、鹽基性肥料 | 五、中和性肥料施用石灰 | 六、有機質肥料 | 七、有機質肥料施用石灰 | 八、人糞尿單用 |
|-------|--------|--------|---------|-------------|---------|-------------|---------|

東京府立農事試驗場



發刊の主旨

農業上に於きまして其利益を増す方法には種々ありますが、就中土壤を作物の生育します上に於て適當な状態にあらしむことが最も肝要であります、此小冊子は作物の生育を害する處のものを含んでをる土を改良して、立派に何作物でも生育し得る様に改良する試験や、並に調査した事柄を單明に編み、酸性土壤の菜こして廣く當業者に頒つこととした、故に之は讀みものでなく、實行すべきもので、實行なされて始めて發刊の主旨に適ひ農業上裨益する處敢て尠くない、依て本場は務めて之が獎勵をする所以である、

東京府立農事試験場

大正
4. 3. 25
内交

酸性土壤の菜

はしがき

近頃酸性土壤なる事をやたらと言ふが、一體どんな事であるかと言ふに、之に就いては當試驗場から、曩に酸性土壤に關し、府下を調査した概況報告で、酸性土壤の原因や、又作物にどんな影響を與へるものであるか、又府下の酸性土壤の状況を記した小冊誌を發行して皆さんに頒布して置いたのみか、其後時にふれ機をいいて講話等にて御話ししてあるから、既に皆さんは御承知の事であつて、夫れ々、各自の土地に就ては改良されなければならぬにも係はらず、其後數年を経たる今日未だ一向に其實が擧らず、依然酸性の爲めに被害されて大麥の生育が悪いとか、葱の早く枯れるとか、或は波菘草の栽培が全く不可能であるとか言ふて居らるゝからして、今一度之れが改良の必要な事を申上げて御参考に供したいと考へ、更に此小冊誌を發行した次第であります、最も當試驗場に於きましては、明治四十三年から酸性土壤の調査に着手しまして現今では略ぼ調査を了へましたから不日全調査報告を公にする積りであります、其以前に府下八郡中最も酸性土壤分布の甚しい南葛飾、南足立、北豊島の三郡に就いては特に改良するの急務であることを感じますによつて此菜は之等の各郡の

土壤の事を主と致しまして記しましたから充分御覽の上、さう言ふ土地は一日も早く改良して完全な土地にし、何作物でも立派に生育すると言ふ土地になされたものであります。

一 酸性土壤はどんなものか

扱て酸性土壤と申しますると、土の中にある種々なものや、又土に施します肥料等によりまして土に一種の酸(スツバミ)を持つて来ることを申すので、これには種々の原因があるのであります、其中で此地方に起つて居る二三の事實を申し上げます。

(イ) 腐植酸類と言ふ一種の酸であります、これは俗に申しますと黒ボクと稱します眞黒な軽い土で此土の中に含まれてをるのであります、南葛郡や南足立郡にありません、山の手の方土には少しは含んでおります、然し府下にあります土壤の中には左まで強い腐植酸を含んでをる爲めに作物が生育しないと言ふのはありません、其次は、

(ロ) 酸性肥料を毎年澤山に使ふと、遂には土他を酸性にするのであります、これは其筈で硫酸「ア」ンモニア」や硫酸加里のやうな肥料は酸と鹽基とから出来た肥料であつて、其鹽基分が肥料となつて作物に吸はれると後に酸分斗りが取り残されるから、取残された土に酸が出来ると譯になる次には、
(ハ) 油粕類 綠肥等を澤山に使用しますると、矢張土の中に前申上げた通り、腐植酸が出来、又之

等の肥料の腐敗せる時に酸が出来まして、土壤に酸性を呈するのであります。

今一つありますのは、これは最も近頃申される様になつた事柄で、仲々面倒な理屈を持つていて當底申し盡されませぬか、只斯様の原因であると言ふのみ簡単に申上げますと、土壤の中にある膠質腐植質物や膠質粘土分等に吸収されておる鐵や礬土の化合物が、土壤酸性の原因をするのであります、鐵や礬土は土の中には澤山に含まれてをるが、酸性を呈する土と呈せない土とがある、此鐵や礬土が土の中に何程澤山あつても其れが膠質腐植質物や膠質粘土分に吸収されてをらないものならば決して酸性を呈せないのであります、之等二つのものが吸収されてをつても、水には溶けませぬが、之れに硫酸「アンモニア」や硫酸加里と言ふ様な肥料を施したならば、吸収されてをる鐵や礬土が溶けてきて、酸性を表し作物の生育を害するやうになるのであります。

二 酸性土壤の被害は作物をどんなにするか

酸性土壤の調査を始めてから全く驚いたのは、南葛郡や南足立郡である、至る處の大麥や蠶豆や又は小麥が最早成長期になつたのに、未だ二三寸しか育たなくて、既に黄色になつて萎縮してをるのを見た、又蒨草を少しも栽培してをらないのが不思議で、至る處で尋ねると、此土地は蒨草にはないから出来ないと申つて居る、處で實際調査してみると蒨草が地にはないのでなく、酸

性が強い爲めに出来ないものであつた、何れもこんな具合で之まで過ごして来ておつた、處で此地方では天地反しと言ふ事をやる、之れは皆さんのおやりになる畑を一尺乃至三尺に鍬き返して底土と表土とを混合してある、こふするは今迄作物の出来なかつた土地にも立派に出来る様になつて來ると言ふも、又實際立派に生育してをるのを見るのでごふいふ具合になつてをるかと思ひ、同じ畑で半分は天地反しを行つたのと、半分は行らないのと、兩方に大麥を作つてあつた、此兩方の畑の土を上から一尺宛に真直深く掘つて、表土と一尺下二尺下と三種の土を取て來て分析し、又其作物は天地反しをした處と行らない所との生育の工合は丸で大違であつた、此土は南葛飾郡奥戸村字曲金某氏の土地であつた。

		全 酸 度	
	表	土 一 尺 下	二 尺 下
甲	七、五	〇、二	〇、一
乙	七、七、四	一、八	〇、一
		同行はさるもの	
		天地反しを行ひたるもの	

矢張り酸性被害の爲めこんな事を研究して其被害を免かれておるので、至極結構な事である、而しながら之等の被害は他の方法で全く改良することが出来る事が發見された今日では、單に酸性の被害を免かれる爲に天地反しならば止めた方が良からふと思ふ、それは天地反しには少なからぬ費用がかかる、少くとも一反歩二尺に天地反しをするには二三十圓はかゝると言ふに至つては尙且無駄である、但し此地方の土質は重粘土質で普通の耕作位では土が沈着して、堅くなるからして、時々鍬返しを行つても良からふか、酸性を改良さへすれば度々天地反しを行ふ必要はないのである。處で此天地反しは一度行れば何年も其土地へは酸性が顯はれては來ないかと言ふに、決してそふてはない、四五年の後は又元の様に土地に酸氣を生して來る、今其の一例を擧げて見ると、南葛飾郡の鹿元村福島某氏は、自己の畑を毎年一部宛を天地反しをして居つたので其畑の土を採つて來て、酸度を定量して見たらば、次のやうであつた。

天地反しを行いたる年次	全酸度
明治四十一年に天地反しを行ひたる畑	三九、六
同 四十二年	二七、六
同 四十三年	二七、六
同 四十四年	一、八

天地反を行はない畑
 恣な工合に一度天地反しをしても又数年の後は其土地に酸を生して來ることは、此分析の成績でも良
 くわかる、だからして農家は又天地反しをするに云ふ様に爲てをる、何が故に天地反しをすれば一旦
 酸が少なくなるかは、今尙研究中であるから茲には説明しない、兎に角一旦は改良されるが、又生し
 て來ては駄目だから、次に述べる方法で酸性の土地を改良し、更に土の軟くなるやうには土を緻き
 返しをするのと目的を二つにしたら良からう。

三 酸性土壤は如何すれば改良されるか

然らば酸性土壤は如何すれば改良されるかと言ふに、之れは何でもないことで、土に酸を生して來
 たのだからして、其酸を中性にさへすれば宜しい、所謂酸を消さば宜いのである、酸を消すには石灰
 とか木灰のやうなアクを用いさへすれば酸氣は消へて失ふから、後は田なり畑なりは何でも良く生育
 の様になる、夫を皆さんに御覽に入れ度い爲めに南葛飾郡に二ヶ所南足立郡に二ヶ所宛の試験地を設
 けて、試験しましたが中途三ヶ所は止めて今尙奥戸村字細田に杉浦某氏に委託して試験してあります
 又金町の第二分場でも立派な試験をしてをりますから、御開の節は行つて御覽になれば御参考にもな
 りませうし、更に詳しく御尋ねになられたなら一層能く御明りになります、今其等試験の二三を擧げ

て其成績を御覽に入れませう。

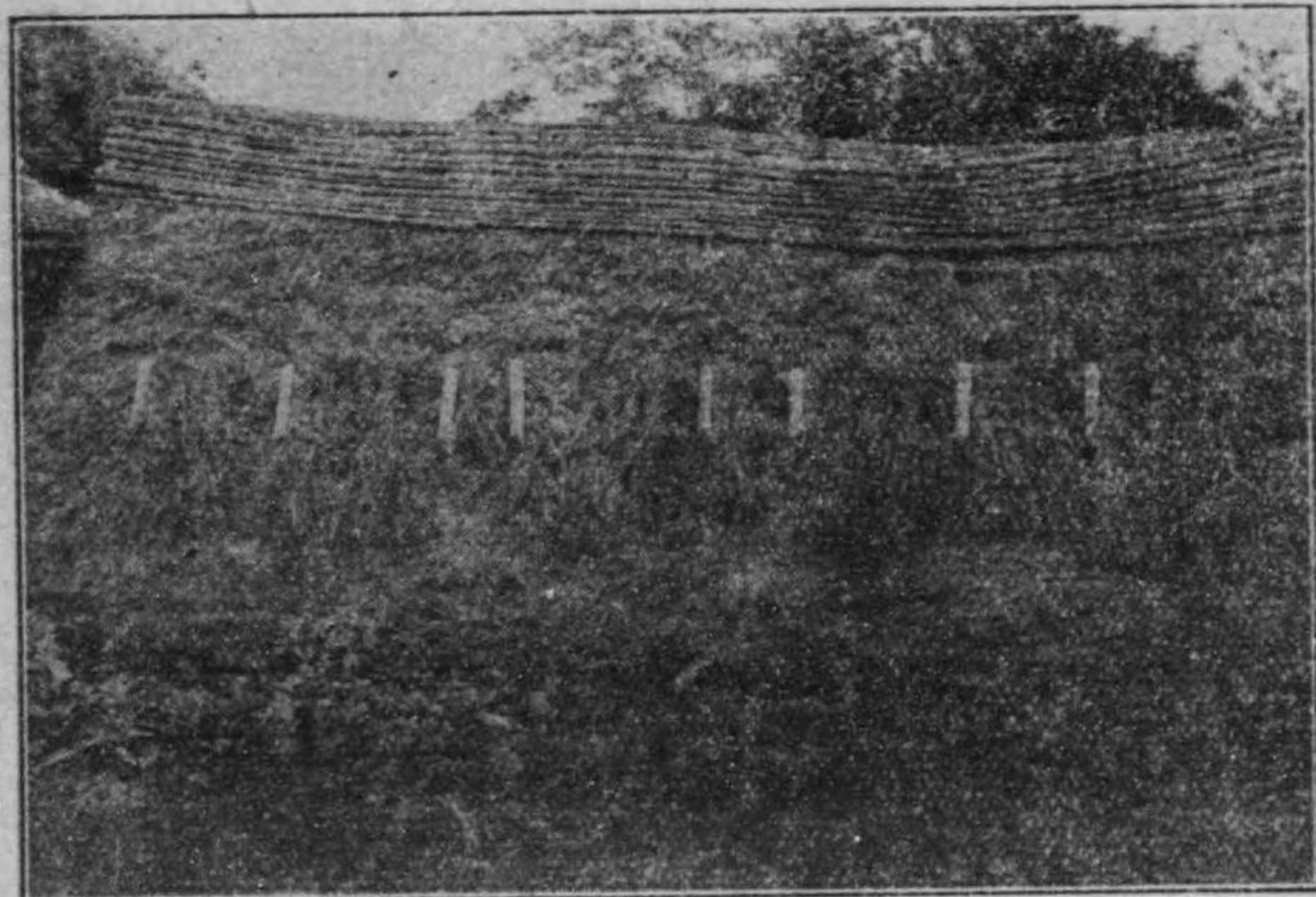


菜豆、葱、大豆、唐菜及大、小麦と言ふ種々な作物を作つて見たのであります、之等の作物は何れも

試験別	收穫量
一 無肥料	二百二十五個
二 無肥料石灰加用	四百十九個
三 中性肥料	四百三十二個
四 中性肥料石灰加用	五百十七個
五 酸性肥料	四百九十二個
六 鹽基性肥料	五百八十六個
七 在來肥料(人糞尿單用)	三百九十九個
八 在來肥料(人糞尿石灰加用)	五百五十六個

此試験をした畑は酸を含んで居ることが九九、〇であつて
 普通の石灰を用ることが一反歩に九十七貫七百三十匁の割
 に用いて、初年に茄を作り、其後に漬菜を作た、其他大麥

石灰を用いたものは石灰を用いないものより、毎も收量が多くて生育の工合が誠に能くあつたのでありました、大麥の試験から一番二番のを變へまして



試験別

試験別	收量
第一區 酸性肥料石灰加用	大麥實 四百四十 菜 千三百三十五 葱 五百六十一 大豆實 一升一合
第二區 鹽基性肥料石灰加用	大麥實 八十 菜 千三百四十六 葱 六百一十九 大豆實 一升八勺
第三區 酸性肥料	大麥實 五 菜 七十二 葱 六百一十九 大豆實 一升二勺
第四區 鹽基性肥料	大麥實 七十五 菜 二千五百五十二 葱 五百一十一 大豆實 一升一合
第五區 中性肥料	大麥實 二十五 菜 八百五十二 葱 八百七十一 大豆實 七合一勺
第六區 中性肥料石灰加用	大麥實 九十 菜 三千二百六十一 葱 六百一十九 大豆實 一升二合
第七區 在來肥料	大麥實 六十五 菜 千二百三十三 葱 三百七十一 大豆實 七合二勺
第八區 在來肥料石灰加用	大麥實 百五 菜 三千二百五十六 葱 六百一十九 大豆實 七合九勺

此成績を見ますと、土の酸を石灰を用いて消して作ったものは石灰を用いないで作つたものより、毎も非常に能く出来て、多い收量を上げておる。

四 土壤の酸を消さねばならぬ

在來肥料の七區と八區で見ると、皆さんが行り來つた人糞尿を單獨に使つたものでも、土地の酸氣を消したのは、其程能く出来て試験をした杉浦氏さへ驚いた位であるから、どうしても土地の酸氣をなくして作物を作ることは最も必要になつて來た、土地に酸氣があると如何に肥料を施しても決して根が既に酸の爲めに害されておるから、施した肥料を吸ふことが出来ないから、従つて作物は育たない出来ぬ作物に無闇に肥料をやつても、無駄な話で結局損と言ふことになる。

石灰を用いて土地の酸を消すには何でもないので種を播く時或は苗を植る十日乃至七日ばかり前に畑なり田に一樣に石灰を振り散らして置いて、能く土に混ぜさせれば良いので何もむづかしい事でも何でも無い、石灰は種々あるが先づ普通壁に塗る石灰が安くて得られ易いから之を使ふが宜しい而して石灰は無茶苦茶に、何程でも使ふと言ふことは出来ない、使ひ過ぎると反對に作物を害するし、使ひ足りなくては酸を消すことが出来なくて効力が現はれないから、土に含まれてをる酸を全部消すと言ふ事が必要になつてをる、之は少し困難であるから、其土を試験場へ送れば無代で酸の量を見て一反歩に石灰を何程使へば良いと言ふて教へて呉れることになつてをるから、無鐵砲なことはせずに、酸を見て貰ふか、又は郡農會の技術者に依頼して見て貰ふも宜しからう、而し荏原郡は僅か

蒲田村に少し強い酸がある位で他には少いが、南葛飾郡や南足立郡には随分他府縣に見られない強い酸性の土があるからして、恠いふ土地では大麥なり菠薐草の生育が悪いと見たら、先づ一反歩に三十貫や四十貫位に使つても決して過ぎる氣遣ひはないから、御使ひになつて一日も早く酸性土壌と言ふ厭やな被害を免かれると言ふことに勉めて欲しい。

然して一反歩へ五十貫以上の石灰を施ふ様な場合には、一度に到底土壌と混ぜきれない、斯る時には先づ半分宛二回に使ふ様にすることが宜しい、左もないと土に能く混らない處の石灰のある爲めに、種を蒔いても生へない、或は苗を移植へても枯れると言ふ様な失敗をまねく事になる、故に、勵めて能く土に混ぜると言ふ上から、五十貫以上も施す様な場合には是非共二回位に分けて使ふが安全である。

御参考の爲めに以上三郡の調査した成績を御覽に入れると次のやうであつて殊に著しく強い酸性のあるのは南葛飾郡である、こんな強い酸性の分布してある地は全國にも少い、但し次の成績中北豊島郡は頁數の都合で酸性の土地のある町村のみを掲げてあるから、其思召で御覽を願つて置きます。

酸性土壌調査の成績

北豊島郡

土壤番號	町 村 字 名	地 目	全 酸 度	一反歩二施用スベキ肥料用石灰量
一七	表村大字表村字北耕地	水田	二、二五	
一八		全	五、二五	
一九		全	二、四〇	
二〇		全	二、四〇	
二一	大字大道東	全	二、四〇	
二二		畑	二、四〇	
二三	大字大道南	畑	二、四〇	
二四	大字小豆澤字山ノ上	全	二、四〇	
二五	字東原	全	九、七五	
二六		全	一〇、五〇	
二七	大字表村字中原	水田	三、〇〇	
二八	大字前野字城山	全	一、二〇	
二九		全	三、〇〇	
三〇	字熊野	畑	三、〇〇	
三一		全	三、〇〇	
三二	字大岡	全	三、〇〇	

一五一	全	字新堀	全	全	一八、七五	一八、三〇
一五二	全	字高畑	全	全	二二、五〇	二二、三〇
一五三	全	大字町屋字大目	全	全	五七、七五	五七、二〇
一五四	全	字荒木	全	全	〇、七五	
一五五	全	安大井松	全	全	六二、五〇	六一、九〇
一五六	全	大字三河島字大豆目	全	全	四五、〇〇	四四、六〇
一五七	全	赤塚村大字四ツ葉字大塚原	全	全	二、二五	
一五八	全	大字上赤塚字稻南越	全	全	一、五〇	
一五九	全	大字成増字百光	全	全	七、五〇	七、四〇
二一〇	全	大字下赤塚字新町屋	全	全	三、七五	三、七〇
二一一	全	大字成塚	全	全	三、〇〇	三、〇〇
二一二	全	大字下赤塚字道芒田	全	全	一、五〇	
二一三	全	字流	全	全	一八、七五	一八、六〇
二一四	全	大字徳丸字根八	全	全	三、七五	三、七〇
二一五	全		全	全		
二一六	全		全	全		
二一七	全		全	全		
二一八	全		全	全		
二一九	全		全	全		
二二〇	全		全	全		
二二一	全		全	全		
二二二	全		全	全		

一五〇	全	三河島村大字三河島字廣沼	全	全	四、五〇	四四、六〇
一四九	全		全	全		
四八	全		全	全		
四七	全		全	全		
四六	全		全	全		
四五	全		全	全		
四四	全		全	全		
四三	全		全	全		
四二	全		全	全		
四一	全		全	全		
四〇	全		全	全		
三九	全		全	全		
三八	全		全	全		
三七	全		全	全		
三六	全		全	全		
三五	全		全	全		
三四	全		全	全		
三三	全		全	全		
三二	全		全	全		
三一	全		全	全		
三〇	全		全	全		
二九	全		全	全		
二八	全		全	全		
二七	全		全	全		
二六	全		全	全		
二五	全		全	全		
二四	全		全	全		
二三	全		全	全		
二二	全		全	全		
二一	全		全	全		
二〇	全		全	全		
一九	全		全	全		
一八	全		全	全		
一七	全		全	全		
一六	全		全	全		
一五	全		全	全		
一四	全		全	全		
一三	全		全	全		
一二	全		全	全		
一一	全		全	全		
一〇	全		全	全		
九	全		全	全		
八	全		全	全		
七	全		全	全		
六	全		全	全		
五	全		全	全		
四	全		全	全		
三	全		全	全		
二	全		全	全		
一	全		全	全		

二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三
全	六ッ	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
	木村字根耕地				大字花畑字久左衛門内根柄 外根柄	大字梅田字龜田耕地				大字栗原字滿願寺	大字鳥根	大字栗原飛地							
全	畑	全	水	全	畑	全	水	全	畑	全	水	全	全	全	畑	全	水	全	畑
底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表
土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
一、五〇	三一、五〇	一、五〇	五、二五	五、二五	二六、二五	〇、七五	〇、七五	一、五〇	〇、七五	一、五〇	〇、七五	一、五〇	二、七五	〇、七五	二、二五	〇、七五	四、五〇	〇、七五	四、五〇
	三一、一〇		五、二〇	五、二五	二六、二〇							一一、六〇					四、五〇		

二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
梅島村大字小左工門新田														
町	村	名												
地	畑	田	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表
土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
〇、七五	〇、七五	二六、二五	二六、二五	一、五〇	五、二五	一〇、五〇	九、七五	五、二五	三、七五					

南足立郡

六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	江北村大字堀口字上田	全	全	全	全	全	全	全	全
	大字谷在家字長田	大字加毛血沼	大字助治郎沼	大字鹿濱	大字鹿濱字新田上耕地							大字嘉谷字耕地前奥	大字金谷	大字村中					
全	畑	全	全	全	水	全	全	全	全	全	全	全	畑	全	水	全	畑	全	水
底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表
土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
二、二五	〇、七五	二、二五	一、五〇	一、五〇	二、二五	一、五〇	三、七〇	一、五〇	〇、七五	二、二五	二、二五	〇、七五	三、七五	〇、七五	一、五〇	二、二五	一、五〇	三、七五	一、五〇
							三、七〇					三、七〇					一三、四〇	三、七〇	

四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三
全	全	全	全	全	全	全	花畑村大字花又字境内	全	全	全	全	全	全	全	全	六ッ木村字根耕地	
	字村北	字前谷	字花又	大字林内				大字辰塚新田字奥谷耕地	大字内邊字町張			大字久左衛門新田字沖波耕地	大字辰塚字居通耕地				
全	全	全	畑	全	水	全	畑	全	水	全	畑	全	水	全	畑	全	水
底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表	底	表
土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
一七、二五	三三、七五	三、〇〇	二七、七五	一、五〇		四二、七五	五一、〇〇	〇、七五	一四、五〇	九、〇〇	一、五七	一、五七	五七、七五	一、五〇			
	一七、四〇	三三、四〇	二四、五〇			四二、三〇	四八、四〇		一四、一〇	八、九〇			五七、二〇				

一反歩ニ施用スヘキ肥料用石灰量

七九	千住五丁目大字川田林地	畑	表土	六七、五〇	六六、八〇
八〇	全	畑	底土		
八一	全	畑	表土	一、五〇	
八二	千住四丁目大字元宿	畑	底土	一、五〇	
八三	全	畑	表土	一、五〇	
八四	千住四丁目大字金佛	畑	底土	一、五〇	
八五	郡農會試驗地	畑	表土	一、五〇	
八六	全	畑	底土	一、五〇	
八七	全	畑	表土	一、五〇	
八八	全	畑	底土	一、五〇	
八九	全	畑	表土	〇、七五	
九〇	千住町大字東内田耕地	畑	底土		
九一	全	畑	表土	一、八、七五	一八、六〇
九二	千住町大字東中沼	畑	底土		
九三	淵江村字保木百八十丁耕地	畑	表土	一、五〇	
九四	全	畑	底土	二、二五	
九五	大字野耕地	畑	表土	六、一、五〇	六〇、九〇
九六	全	畑	底土		
九七	大字内耕地	畑	表土	七、五〇	七、四〇
九八	全	畑	底土		
九八	大字竹塚	畑	表土		

六一	江北村大字浪田字村内	畑	表土	一一、四〇	一一、三〇
六二	全	畑	底土	一〇、五〇	一〇、四〇
六三	大字高崎	畑	表土	二、二五	
六四	全	畑	底土	一、五〇	
六五	大字高野字前耕地	畑	表土	一四、二五	一四、一〇
六六	全	畑	底土	九、七五	九、七〇
六七	大字宮城字薄木本	畑	表土	四、五〇	四、五〇
六八	全	畑	底土	一、五〇	
六九	大字小臺字本村	畑	表土	八、二五	八、二〇
七〇	全	畑	底土	三、七五	三、七〇
七一	千住町字西耕地	畑	表土	五、二五	五、二〇
七二	全	畑	底土	一一、二五	一一、一〇
七三	全	畑	表土		
七四	全	畑	底土	三四、五〇	三四、二〇
七五	全	畑	表土	一、五〇	
七六	千住四丁目字西金佛	畑	底土		
七七	全	畑	表土		
七八	全	畑	底土		

土壤番號 町 村 名

地 田、畑 表、底

全 酸 度
一一反麥ニ施用スヘキ肥料用石灰量

一一七	一一八	一一九	一二〇	一二一	一二二	一二三	一二四	一二五	一二六	一二七	一二八	一二九	一三〇	一三一	一三二	一三三	一三四	一三五	一三六
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
大字彌五郎新田							西新井村大字本木				大字西新井			大字與野				大字本木	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
四八、七五	七八、七五	四八、〇〇	六〇、七五	五七、七五	五一、〇〇	二、二五					一、五〇	六、〇〇	二、五〇	一、五〇	二、二五	五、二五	五一、七五	〇、七五	
四八、三〇	七八、〇〇	四七、五〇	六〇、一〇	五七、二〇	五〇、五〇							五、九〇				五、二〇			

一一六	一一七	一一八	一一九	一二〇	一二一	一二二	一二三	一二四	一二五	一二六	一二七	一二八	一二九	一三〇	一三一	一三二	一三三	一三四	一三五	一三六
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田	大字彌五郎新田
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
五、二〇	一〇、四〇	五、二〇	三、〇〇	三、〇〇	四三、五〇	一、五〇	六、七、五〇	八、四、七五	一、五〇	一、五〇	一、五〇	四、五〇	五、二五	一〇、五〇	五、二五	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	四、五〇	五、二〇
四、五〇	一〇、四〇	五、二〇	三、〇〇	三、〇〇	四三、一〇	六、六、八〇	八、三、九〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇	五、三、五〇

一一一

一一〇

土壤番號	町 村 名	地 田、畑	表、底 目	全 酸 度	一反歩ニ施用スヘキ肥料用石灰量
一七五	東淵江村大字大谷田字澤瀬	水田	表土	二、二五	
一七六	大字大谷田字泰田	全	全	〇、七五	
一七七	大字蒲原字一番割	全	全	一、五〇	
一七八	大字フケン寺字三江田地	畑	全	五七、〇〇	五六、四〇
一七九	大字北三谷字三江田地	全	全	三七、五〇	三七、一〇
一八〇	大字普覽寺字村添	全	底土	三、〇〇	
一八一	大字北三谷字下川原	全	全	三二、二五	三一、九〇
一八二	大字長佐衛門新田	全	全	一、五〇	
一八三	大字長佐衛門新田	全	全		

南葛飾郡

土壤番號	町 村 名	地 田、畑	表、底 目	全 酸 度	一反歩ニ施用スルキ肥料用石灰量
一	水本村大字上小合字中谷原	水田	表土	二、一〇	二、一〇
二	大字下小合字日枝神社前	畑	底土	三、九〇	三、九〇
三	大字下小合字金山山王前	全	表土	〇、三〇	
四	大字小金山山王前	全	全	一五、六〇	一五、四〇
五	大字小合字新田入妻	水田	全	一二、六〇	一二、五〇

土壤番號	町 村 名	地 田、畑	表、底 目	全 酸 度	一反歩ニ施用スルキ肥料用石灰量
六	上小合字小合錠桿	水田	表土	〇、三〇	八、〇〇
七	下小合字宮ノ下	水田	表土	八、一〇	
八	猿ヶ臺字吾妻臺	畑	底土	〇、六〇	
九	全猿ヶ臺	畑	底土	〇、六〇	
一〇		水田	底土	一、二〇	
一一		水田	表土	〇、二〇	
一二		水田	底土	七、八〇	七、七〇
一三	飯塚字押沼	水田	表土	〇、三〇	
一四	小合字向内	水田	底土	〇、九〇	
一五	奥戸村	水田	底土	〇、九〇	
一六	奥戸字前沼	水田	底土	〇、六〇	
一七	小松字西耕地	畑	表土	六五、四〇	六四、七〇
一八		畑	底土	〇、六〇	
一九		水田	底土	八、七〇	八、六〇
二〇		水田	底土	〇、九〇	
二一		水田	底土	〇、三〇	
二二	下小松字東海	畑	表土	五五、七〇	五五、一〇
二三	松字谷中	畑	表土	一五、〇〇	一四、九〇
二四	奥戸字新田字下耕	水田	表土	六、〇〇	五、九〇
二五	諏訪野	水田	表土	六、〇〇	

八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇	一〇一	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
小谷野大字蓮沼耕 千葉大字五反田字飛地 全 大字千葉 千葉大字倉ノ内字	荒田大字新田	平桑大字東耕地 全 大山王寺前	全 大字堀切向在家	全 大字篠原後	全 大字上記號 平井大字中平井字西袋	全 大字本郷														
畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	
底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	
アルカリ性	二、三、二〇	一九、八〇	〇、六〇	一、四〇	三、六〇	一、二〇	二、四〇	八、一、六〇	四、三、二〇	〇、三〇	性	性	六、六〇	八、二、二〇	一、二、〇〇	六、六、〇〇	一、二、六〇	三、六〇	四、五、六〇	
二、三、〇〇	一九、六〇	一、一、三〇	三、六〇	二、四〇	八〇、八〇	四、二、八〇	六、五〇	八、一、四〇	一、一、九〇	六、五、三〇	一、二、五〇	三、六〇	四、五、一〇							

六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
西字喜田字小島入會	宇小島	字長崎	全 字下ヶ崎	桑川字新田	長島字東河原	東字喜太字本田	堀江字飛地	全 十丁	南綾瀬村 小管字一番割	全 字二番割							
畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑
表	底	全	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底	底
一、二〇	一、二〇	二、四〇	〇、六〇	四、五、六〇	一、二〇	一、八〇	六、六〇	二、四〇	一、二〇	〇、六〇	〇、三〇	〇、三〇	〇、三〇	〇、三〇	〇、三〇	〇、六〇	〇、六〇
二、四〇	四、五、一〇	一、七、八〇	六、五〇	二、四〇	二、四〇	一、七、八〇	六、五〇	二、四〇	二、四〇	一、七、八〇	六、五〇	二、四〇	二、四〇	一、七、八〇	六、五〇	二、四〇	二、四〇

一反歩ニ施用スル肥料用石灰ノ量

一一〇	全	畑	底土	六〇、六〇
一一一	全	畑	表土	七〇、〇〇
一一二	全	畑	底土	八〇、八〇
一一三	全	畑	表土	八〇、八〇
一一四	全	畑	底土	四八、七〇
一一五	全	畑	表土	八六、一〇
一一六	全	畑	底土	八、一〇
一一七	全	畑	表土	四二、二〇
一一八	鹿本村鹿骨大字西田	畑	表土	九八、〇〇
一一九	全	畑	底土	四〇、八〇
一二〇	全	畑	表土	五五、八〇
一二一	全	畑	底土	三、六〇
一二二	全	畑	表土	七四、三〇
一二三	全	畑	底土	六七、七〇
一二四	全	畑	表土	二七、三〇
一二五	全	畑	底土	二七、三〇
一二六	全	畑	表土	二七、三〇
一二七	全	畑	底土	二七、三〇
一二八	全	畑	表土	二七、三〇
一二九	全	畑	底土	二七、三〇
一三〇	全	畑	表土	二七、三〇
一三一	全	畑	底土	二七、三〇
一三二	全	畑	表土	二七、三〇
一三三	全	畑	底土	二七、三〇
一三四	全	畑	表土	二七、三〇
一三五	全	畑	底土	二七、三〇
一三六	全	畑	表土	二七、三〇
一三七	全	畑	底土	二七、三〇
一三八	全	畑	表土	二七、三〇
一三九	全	畑	底土	二七、三〇

三一

一一〇	全	畑	底土	七一、三〇
一一一	全	畑	表土	四〇、四〇
一一二	全	畑	底土	一一、九〇
一一三	全	畑	表土	五三、五〇
一一四	全	畑	底土	四一、六〇
一一五	全	畑	表土	三、六〇
一一六	全	畑	底土	八二、〇〇
一一七	全	畑	表土	四一、六〇
一一八	全	畑	底土	三、六〇
一一九	全	畑	表土	八二、〇〇
一二〇	全	畑	底土	四一、六〇
一二一	全	畑	表土	三、六〇
一二二	全	畑	底土	八二、〇〇
一二三	全	畑	表土	四一、六〇
一二四	全	畑	底土	三、六〇
一二五	全	畑	表土	八二、〇〇
一二六	全	畑	底土	四一、六〇
一二七	全	畑	表土	三、六〇
一二八	全	畑	底土	八二、〇〇
一二九	全	畑	表土	四一、六〇
一三〇	全	畑	底土	三、六〇
一三一	全	畑	表土	八二、〇〇
一三二	全	畑	底土	四一、六〇
一三三	全	畑	表土	三、六〇
一三四	全	畑	底土	八二、〇〇
一三五	全	畑	表土	四一、六〇
一三六	全	畑	底土	三、六〇
一三七	全	畑	表土	八二、〇〇
一三八	全	畑	底土	四一、六〇
一三九	全	畑	表土	三、六〇

三〇

土壤番號

町 村 名

地 水田、畑
表、底

全 酸 度

一反歩ニ施用スル
肥料用石灰ノ量

一九三	全	全	畑	底	四、八〇	四、八〇
一九四	全	全	水	表	九六、〇〇	九五、〇〇
一九五	全	全	水	表	二〇、四〇	二〇、二〇
一九六	全	全	畑	表	二、六〇	二、六〇
一九七	全	全	畑	表	四八、〇〇	四七、五〇
一九八	全	全	畑	表	二七、〇〇	二六、七〇
一九九	全	全	畑	表	一一、二〇	一一、〇〇
二〇〇	全	全	畑	表	二四、〇〇	二三、八〇
二〇一	全	全	畑	表	一〇八、〇〇	一〇六、九〇
二〇二	全	家付	水	表	二七、六〇	二七、三〇
二〇三	全	全	畑	表	一四、四〇	一四、三〇
二〇四	全	内野	全	表	四六、八〇	四六、三〇
二〇五	全	全	全	表	五二、八〇	五二、三〇
二〇六	全	新宿	全	底	六一、二〇	六〇、六〇
二〇七	全	全	畑	表	二四、六〇	二四、四〇
二〇八	全	全	水	表	二一、〇〇	二〇、八〇
二〇九	全	全	畑	表	一一、二〇	一一、〇〇
二一〇	全	全	全	表	二六、四〇	二六、一〇
二一一	全	全	全	表	二四、六〇	二四、四〇
二一二	全	全	全	表	六〇、六〇	六〇、〇〇

三五

一九二	全	全	全	全	七八、〇〇	七七、二〇
一九一	全	全	全	表	六六、〇〇	六五、三〇
一九〇	全	全	畑	表	五一、六〇	五一、一〇
一八九	全	全	畑	底	九二、四〇	九一、五〇
一八八	全	全	畑	表	一、八〇	四、八〇
一八七	全	全	畑	表	九一、八〇	九〇、九〇
一八六	全	全	水	表	四、八〇	四、八〇
一八五	全	全	全	表	五七、〇〇	五六、四〇
一八四	全	全	全	表	五五、八〇	五五、二〇
一八三	全	全	全	表	六八、四〇	六七、七〇
一八二	全	全	全	表	四五、〇〇	四四、六〇
一八一	全	全	全	表	四五、〇〇	四四、六〇
一八〇	全	全	全	表	三、六〇	三、六〇
一七九	全	全	全	表	九〇、〇〇	八九、一〇
一七八	全	全	全	表	三七、八〇	三七、四〇
一七七	全	全	全	表	九〇、〇〇	八九、一〇
一七六	全	全	畑	底	四、八〇	四、八〇
一七五	全	全	全	表	六三、六〇	六三、〇〇

三四

土壤番號	町 村 名	地 目	全 酸 度	一反歩ニ施用スル 肥料用石灰ノ量
二二三	立石大字前野	全	八六、四〇	八五、五〇
二二四	淡須大字宅地畑	全	六六、〇〇	六五、三〇
二二五	中原大字東屋敷畑	全	四、八〇	四、八〇
二二六	梅田大字宅地添	畑	四二、〇〇	四一、六〇
二二七	全	全	三〇、〇〇	二九、七〇
二二八	笑原	全	一二、〇〇	一一、九〇
二二九	四木大字東尾	全	三〇、〇〇	二九、七〇
二二〇	澁江大字鞍曲	全	六九、六〇	六八、九〇
二二一	隅田差古川門	全	七六、八〇	七六、〇〇
二二二	全 差古外	全	二四、〇〇	二三、八〇
二二三	寺島村本玉井	全	一四、四〇	一四、三〇
二二四	全	全	六四、八〇	六四、二〇
二二五	全	全	一四、四〇	一四、三〇
二二六	大木村古畑大字下井	畑	一四、四〇	一四、三〇
二二七	大字下大畑	全	六六、〇〇	六五、三〇
二二八	大字下大畑	全	七九、八〇	七九、〇〇
二二九	上大畑大字土井	全	一〇八、〇〇	一〇六、九〇
二三〇	大字上大畑字上井	全	二二、八〇	二二、六〇

二三一	全 上木下川大字綾瀬川	全	七一、八〇	七一、一〇
二三二	全	全	七六、八〇	七六、〇〇
二三三	孺吾大字小村井	全	七四、四〇	七三、七〇
二三四	全	全	四、八〇	四、八〇
二三五	全	全	二、四〇	二、四〇
二三六	大字清地一丁田	水	一六、二〇	一六、〇〇
二三七	小村井	水	六、〇〇	五、九〇
二三八	大字藤田耕	畑	四、八〇	四、八〇
二三九	葛西川大字出口	全	二二、八〇	二二、六〇
二四〇	大字西耕	水	三、六〇	三、五六
二四一	全 龜井戸大字吾孺耕	畑	八一、六〇	八〇、八〇
二四二	龜井戸大字龜井戸	水	一八、〇〇	一七、八〇
二四三	全	全	一三、二〇	一三、一〇
二四四	龜井戸大字本田耕	畑	一二、〇〇	一一、九〇
二四五	全	全	一四、四〇	一四、三〇
二四六	大島村大島	水	一二、六〇	一二、五〇
二四七	全	全	六、〇〇	五、九〇
二四八	龜井戸大字東沖島	畑	四、八〇	四、八〇
二四九	全	全	〇、〇〇	〇、〇〇
二五〇	全 深川出村大字永平耕	畑	一、八〇	一、八〇

326
71

大正四年二月廿二日印刷
大正四年二月廿五日發行

東京府立農事試驗場

豊多摩郡中野町

東京市芝區南佐久間町二丁目十番地

印刷者 加藤隆一郎

東京市芝區南佐久間町二丁目十番地

印刷所 正隆堂印刷所

土壤番號	町 村 名	地 目	全 酸 度	一反少ニ應用スル 肥料用石灰ノ量
二五一	大字深川出村永平耕	水田	一一、〇〇	一一、九〇
二五二	大字小名木川小名木川通	畑	一二、〇〇	一一、九〇
二五三	大島村大字南本場	畑	二四、〇〇	二三、八〇
二五四	大字砂八右衛門新田六左島耕	水田	二四、〇〇	二三、八〇
二五五	大字八右衛門六左島	畑	一三、二〇	一三、〇〇
二五六	大字砂村新田	畑	一、二〇	一三、〇〇
二五七	大字砂村新田元入耕地	畑	一、二〇	一三、〇〇
二五八	大字砂村新田	全	二、四〇	二、四〇
二五九	大字砂村新田	水田	二四、〇〇	二三、八〇
二六〇	大字中田新田中田耕	畑	一、二〇	一、二〇
二六一	大字水田妙法耕	水田	三、六〇	三、六〇
二六二	大字水田妙法耕	水田	四、八〇	四、八〇
番外一	奥戸村大字曲金	畑	九〇、〇〇	八九、一〇
二	全	畑	五一、〇〇	五〇、五〇
三	全	畑	五二、〇〇	五一、五〇

326
71

終

